



む け げ 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

親鸞聖人ご誕生八五〇年を迎えて

親鸞聖人がお生まれになったのは、今からおよそ850年前の平安時代も終わりに近い承安3年4月1日(新暦1173年5月21日)の事でした。父親の名前は、日野有範(ひのありのり)と言ひ、母親は吉光女(きっこうにょ)と伝えられております。そして、親鸞聖人の幼いときの名前は、松若丸と言ったといわれます。生まれた場所は、現在の法界寺付近であったとされ、その場所と思われるところに「日野誕生院」が本願寺の直轄寺院として建てられております。

親鸞聖人がお生まれになったこの時代は、政治の権力が貴族から武士へと移り、また武士の間では源氏と平家の権力争いも起きていた時代でもありました。そして聖人がお生まれになった承安3年頃は、平家の全盛時代でもあり、対立する源氏の男子は暗殺をされるなど殺伐とした中で、平家に滅ぼされていった貴族の一統でもある藤原家の流れをくむ日野家もまた、そのような危惧を持っていたのではなかったでしょうか。

それに加えて、4歳の時に父親と死別、さらに8歳の時には母親とも死別。そして、その年は大変な飢饉に覆われた年でもありました。京都中心部だけでも4万人以上の餓死者の遺体が放置されていたと言われております。そのような中で、源氏と平家の争いはますます激化していきます。そのような中で、1181年に平清盛が亡くなりました。親鸞聖人9歳の年です。

この時代は、まさしく市井の人々にとっては苦難の時代でもあったのです。眼に入るもの、そして耳に入ってくる声。全てが苦しむ人々の姿だったのでしょう。そのような中で、死の苦悩を目の当たりにされていた親鸞聖人は得度(僧侶になるための儀式)をされました。得度された場所は、京都東山三条付近に今も残る青蓮院で、聖人は9歳になったばかりの春のことでした。得度をして授かった法名は、範宴(はんねん)と言いました。

その後、比叡山にのぼり不断念仏を修行する堂僧としておよそ20年間修行されました。

聖人は、20年間の修行生活の中で、死の苦悩を解決するため「生死出ずべき道」を求められましたが、とうとう解決には至らず六角堂の百日間の参籠を経て、遂に比叡山を下りて「法然聖人」の門下に入られることを決意されました。これが、南無阿弥陀仏のお念仏一つで、私は救われていくという「他力=如来の本願力」の教えとの出会いでもありました。

改めて親鸞聖人のお生まれになった時代を振り返ってみますと、まさしく「死」と隣り合わせの時代でもあります。両親の死。市井の人々の死。権力争いの中での死。飢えによる死。そして自分もいつ襲われるかもしれない「自分自身の死」。その解決が、法然聖人の伝えられる教えの中にあった。親鸞聖人は、どれほど安堵したのでしょうか。それが、将来の「顕浄土真実教行証文類」の執筆、そして浄土真宗の開宗(親鸞聖人は決して意図していなかったが)へと繋がっていくことになりました。



日野誕生院(真宗教団連合HPより)

仏
説
阿
弥
陀
經

(第4回)※ご法事でよく使われる「仏説阿彌陀經」を現代語訳しています。

しかしながら舍利弗よ、わずかな功德を積むだけでは、とてもその国に生れることはできない。

舍利弗よ、もし善良なものが、阿彌陀仏の名号を聞き、その名号を心にとどめ、あるいは一日、あるいは二日、あるいは三日、あるいは四日、あるいは五日、あるいは六日、あるいは七日の間、一心に思いを乱さないなら、その人が命を終えようとするときに、阿彌陀仏が多くの聖者たちとともにその前に現れてくださるのである。

そこでその人がいよいよ命を終えるとき、心が乱れ惑うことなく、ただちに阿彌陀仏の極樂世界に生れることができる。

舍利弗よ、私はこのような利益があることをよく知っているから、このことを説くのである。もし人々がこの教えを聞いたなら、ぜひともその国に生れたいと願うがよい。

舍利弗よ、私が今、阿彌陀あしゅくび仏の不可思議な功德をほめたたえているように、東方の世界にも、また阿閼鞞あしゅくび仏・須弥相仏・大須弥仏・須弥光仏・妙音仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して、世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて、『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

舍利弗よ、また南方の世界にも、日月灯仏・名聞光仏・大焰肩仏・須弥灯仏・無量精進仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて、『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

舍利弗よ、また西方の世界にも、無量寿仏・無量相仏・無量幢仏・大光仏・大明仏・宝相仏・浄光仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して、世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて、『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

舍利弗よ、また北方の世界にも、焰肩仏・最勝音仏・難沮仏・日生仏・網明仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して、世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

舍利弗よ、また下方の世界にも、師子仏・名聞仏・名光仏・達摩仏・法幢仏・持法仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して、世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて、『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

舍利弗よ、また上方の世界にも、梵音仏・宿王仏・香上仏・香光仏・大焰肩仏・雑色宝華嚴身仏・娑羅樹王仏・宝華徳仏・見一切義仏・如須弥山仏など、ガンジス河の砂の数ほどの仏がたがおられ、それぞれの国で広く舌相を示して、世界のすみずみにまで阿彌陀仏のすぐれた徳が真実であることをあらわし、まごころをこめて、『そなたたち世の人々よ、この《阿彌陀仏の不可思議な功德をほめたたえて、すべての仏がたがお護りくださる經》を信じるがよい』と仰せになっている。

参れ～寺カード10ポイント達成報告

参れ～寺30ポイント達成者
井坂 ヨシエ様

参れ～寺20ポイント達成者
橋本 貢 様



清掃奉仕

参加者名

井坂 久美子様
井坂 豊子様
井坂 ヨシエ様
石川 明美様
石川 桃代様
根本 志郎様

ホームページのご案内

正念寺ではホームページがございます。常陸太田市・正念寺で検索していただきますと「正念寺」のホームページが出てきます。

ホームページには、今までの寺報やちょっとした仏教の話、寺の縁起などもあります。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んでください。



清掃奉仕光景



第3回 グラウンドゴルフ 報告

コロナ感染症の問題で、去年は中止いたしました。このところやっとコロナが落ち着いてきたこともあり、正念寺杯

を実施いたしました。とは言え、最初の予定日は雨に祟られ、一週間の延期をせざるを得なくなりましたが、実施日当日は天気にも恵まれ、久々に楽しくゲームが出来ました。

朝9時に正念寺に集まっていたいただき、その後「大方運動場」に移動。大方地区の方々が準備を済ませて下さっており、会場について組み分けをした後、直ぐに大会を開始しました。今回の参加者は、18名だったので、3組に分けてから、競技を開始しました。終了後は、再び正念寺へ移動して、ご本尊へ合掌の後表彰式。優勝は、大方町の「井坂浩」様になりました。

今後とも、感染症対策をしながら、グラウンドゴルフを続けていく予定です。今後とも沢山の方の参加をお待ちしております。



感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させていただきます。

釋法咲 永代経として

金 20万円

川又 一郎様

慧光院釋孝恩・慈風院釋恭証 永代経として

金 30万円

萩野谷 勇太様

正覚院釋光和 永代経として

金 10万円

安 正留様

今年も沢山のお仏供米をご奉納戴きました。
ここに謹んでご報告させていただきます。

10月31日現在

常陸太田市

井坂 孝一様

井坂 哲也様

井坂 照雄様

井坂 友之様

井坂 豊子様

井坂 浩 様

小菌 篤 様

小菌 達雄様

小菌 浩文様

小菌 光晴様

勝山 芳和様

仲村 義信様

平山 晶邦様

武藤 美德様

那 珂 市

浅川 泉 様

小田倉 敬様

檜村 一洋様

小澤 喜一様

萩野谷 定之様

箕川 政一様

常陸大宮市

坪井 誠 様

ご奉納戴きましたお仏供米は大切にに使わせて頂きます。



これからの行事予定

11月30日(火) 9時～	清掃奉仕
12月31日(金) 23時～	除夜会
1月 1日(土) 0時～	元旦会
1月 7日(金) 10時～	総代・世話人 新年初顔合わせ
1月 8日(土) 10時～	聞法会 新年初顔合わせ
1月25日(火) 9時～	清掃奉仕
2月22日(火) 9時～	清掃奉仕
13時30分～	お仏具磨き
3月 8日(火) 13時30分～	永代経法要 講談 一龍齋春水様
3月21日(日) 10時～	彼岸会法要
11時～	久遠廟法要
4月10日(日) 14時～	花祭りコンサート 歌手 天下井朱海様



住職雑感

中国でコロナ感染症の患者が出てからもうすぐ2年になります。このところだいぶ落ち着いてきましたが、この後年末・年始に向かいますので、再びこの感染症を流行させないためにも一人一人しっかり対策をしたいものです。

この様な時には、大概様々な流言飛語が飛び交います。今回も例に漏れず、様々ないわゆる「陰謀論」が飛び交っています。例えば、ビルゲイツがワクチンの中に微粒子を入れて世界中の人間を監視しようとしているとか、次世代通信規格の5Gはコロナに罹りやすくするとか、コロナは熱に弱いからお湯を飲めば効果があるなど。全てが、何の根拠もない流言に過ぎません。

未だにコロナは、ただの風邪だから、と言う人もいますが、お亡くなりになる方も確実にいらっしゃいます。そうなった時にはお骨になってからしか会うことが出来ないのです。ご家族の方々の気持ちを考えたら、これほど辛いことがあるのでしょうか。

仏教に「正見」という言葉があります。物事を正しく「真実」を見る、と言う意味ですが、今こそ様々な流言飛語に惑わされず、しっかりと真実を見極める眼を持ちたいものです。